



2016年度  
(平成28年度)

# 事業報告書

## 第1 法人の概要

1. 学院のモットー、教育理念
2. 法人の沿革

## 第2 事業の概要

1. 2016年度 事業方針
2. 2016年度 学校法人 事業報告
3. 2016年度 認定こども園聖母被昇天学院幼稚園 事業報告
4. 2016年度 聖母被昇天学院小学校 事業報告
5. 2016年度 聖母被昇天学院中学校高等学校 事業報告

## 第3 財務の概要

1. 2016年度決算状況 別添2016年度財務状況資料のとおり

学校法人 聖母被昇天学院

学校法人聖母被昇天学院は、1839年フランスのパリで聖マリ・ウージェニーによって創立されたカトリック聖母被昇天修道会を母胎としています。聖マリ・ウージェニーは、1817年8月25日フランスのメッツで生まれ、本年は生誕200周年を迎えます。

聖マリ・ウージェニーは教育理念「自立した女性を育てる」の具現化のため、世界各国に教育機関として聖母被昇天学院を創立しました。

日本では、1952年にフィリピンとヨーロッパから5人のシスターたちが来日して修道院を創ると共に、教育事業の開設を準備いたしました。1954年に学校法人として認可されて以来、今日までの63年間、聖マリ・ウージェニーの教育理念の原点に立って、日々の教育活動を展開している。

## 第1 法人の概要

法人の名称	学校法人 聖母被昇天学院
法人の住所	大阪府箕面市如意谷 1-13-23
電話番号	072-721-7680
設立	1954年(昭和29年)2月6日学校法人被昇天学園設立認可

### 1. 学院のモットー、教育理念

#### (1) 学院のモットー

「誠実・隣人愛・喜び」

#### (2) 教育理念

イエス・キリストの教えに基づいて、

1. 真理と善をもとめ
2. 他者を愛する人間性を育み
3. 社会に平和と正義をもたらすために
4. 自らの生を生き抜く人間の育成に努める。

### 2. 法人の沿革

#### (1) 法人設立認可年月日

1954年(昭和29年)2月6日学校法人被昇天学園設立認可

1987年(昭和62年)4月1日学校法人被昇天学園から学校法人聖母被昇天学院に名称変更

#### (2) 学校園設置認可年月日

1954年(昭和29年)2月9日幼稚園設置認可

1954年(昭和29年)2月9日小学校設置認可

1959年(昭和34年)11月6日中学校設置認可

1962年(昭和37年)9月29日高等学校設置認可

1967年(昭和42年)1月23日短期大学設置認可

2005年(平成17年)7月29日短期大学閉学認可

2015年(平成27年)3月31日幼稚園廃止認可

2015年(平成27年)4月1日認定こども園設置認可

(3) 設置する学校園の概要

幼稚園 1953年(昭和28年)4月1日開園、2015年(平成27年)3月31日閉園  
 小学校 1954年(昭和29年)4月1日開校  
 中学校 1960年(昭和35年)4月1日開校  
 高等学校 1963年(昭和38年)4月1日開校(全日制普通科)

2015年(平成27年)4月1日認定こども園聖母被昇天学院幼稚園開園  
 2017年(平成29年)4月1日アサンプション国際小学校に名称変更  
 2017年(平成29年)4月1日アサンプション国際中学校に名称変更  
 2017年(平成29年)4月1日アサンプション国際高等学校に名称変更

(4) 学校園の生徒等数の状況

2016年5月1日現在(単位:人)

区分	収容 定員数	現員数
認定こども園聖母被昇天学院幼稚園	310	309
聖母被昇天学院小学校	360	179
聖母被昇天学院中学校	240	133
聖母被昇天学院高等学校	240	164
合計	1,150	785

(5) 役員、評議員の概要

2016年5月1日現在(単位:人)

職務	定員数	現員数
理事	7	7
監事	2	2
評議員	15	15

(6) 教職員の概要

2016年5月1日現在(単位:人)

区分		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	法人	合計
教員	本務	20	15	14	17		66
	兼務	15	14	27	23		79
職員	本務	1	1	1	1	7	11
	兼務	3	6	4	3		16

## 第2 事業の概要

### 1. 2016年度 事業方針

学校改革元年！

アサンプション国際（2017年4月～）

（Assumption Kokusai）

学校をつぶさない！建学の精神を全員が再認識する！

そのためには

21世紀型教育の最先端を行く関西一のカトリック校にする！

結果として

「幸せな社会を作る多様で多彩な愛に満ちた人材」が巣立つ！

#### テーマ第1 三つの改革

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 1. 学校の存続をかけた教育改革   | ⇒生徒獲得大増強を目指す！   |
| 2. 両新校長による教職員の意識改革 | ⇒人事管理強化と全校一丸体制！ |
| 3. 資金循環安定化への財務改革   | ⇒「縮小均衡」からの脱却！   |

#### <今こそ建学の精神を！>

カトリックの宗教理念そのものがグローバル理念！

聖母被昇天修道会、創立者マリ・ウージェニーの教育理念こそがグローバル教育の原点！

キリストへの信仰を見出し、真の人間性の育成、愛と正義による社会の建設はキリストによつてのみ可能という信念に基づき、社会の変革に貢献する青少年の教育を行う修道会を設立した。

修道会は現在パリに本部を置き、世界34カ国で教育活動を行っている。修道会は1952年に来日し、1954年に学校法人聖母被昇天学院を設立、現在に至っている。

#### <学院のモットー>

誠実

隣人愛

喜び

#### テーマ第2 教育改革・五本の柱

- |                 |  |
|-----------------|--|
| 1. カリキュラム変革     | …2017年3月までに徹底的に見直す<br>(工程管理表によるチェック体制推進) |
| 2. アクティブラーニング導入 | …改革PTの徹底活用<br>(メンバーのモラルアップ積極支援)          |
| 3. 広報戦略の抜本変革    | …広報費10倍で外部発信力強化<br>(地上戦から空中戦・ネット戦略へ)     |
| 4. 英語教育の拡大強化    | …4技能英語、オールイングリッシュ授業<br>(当校の強み=フィリピン力も活用) |

5. ICTの積極的導入 …「誰もが理解できる勉強」の確立  
(合理的な勉学と未来への対応)

テーマ第3 教職員の意識改革

1. 風評「同じメンバーで改革は無理」の打破 …奮起！ICT活用  
2. コミュニケーション改革(人事管理向上) …現場意識の活性化  
3. 危機突破・トップダウンの体制作り …迅速な方針決定  
\*アンケート活用による改善度チェック(保護者、教職員)

テーマ第4 財務改革

1. 改革資金の確保 …修道会支援、金融機能の積極活用  
2. 安定的な運転資金循環 …生徒獲得増大効果、資産有効活用  
3. 人件費の機動的管理 …人事評価に連動した処遇の公平化

テーマ第5 21世紀型教育とカトリック宗教理念

- 20世紀型教育＝知識集積型・・・知識・技能・応用  
21世紀型教育＝問題解決型・・・知識・技能・応用 プラス 分析力・総合判断力・自己決定力

なぜなら

21世紀は、今までの「知識の詰め込み」だけでは対応できない時代になる！

そのために必要な教育は

- ①コミュニケーションツールとしての、大きな英語力！  
②課題解決型授業(アクティブラーニング)から生まれる、創造的思考！  
③ICT活用による、合理的な勉学と未来への対応！

⇒クラスを世の中と同じようにダイナミックに！

⇒未来の社会で活躍するために、21世紀型教育を始める！

そうすれば

- 「人の話が聞ける」  
「人を思いやることができる」  
「人と共に歩むことができる」  
そして「自分の意見を述べることができる」 … グローバル教育

「人にして欲しいと思うことは何でも人にしなさい」 (聖書・マタイ7章)

⇒カトリックの宗教理念そのものがグローバル理念！

つぶさないための改革 でもあるが

今こそ

ASSUMPTION 教育が真価を発揮する時

## 2. 2016年度 学校法人 事業報告

### 2-1 常任理事会の設置

2016年3月22日理事会決議に基づき、2016年4月1日より、常任理事会を設置した。

早急かつ抜本的な学校改革が必須な現状から、理事長・副理事長・小学校校長・中高校長による「常任理事会」を設置した。2年後に改めて組織設置を審議することとした。また、理事会の決議を必要とするものを除き審議し、経過を理事会に報告するものとした。

2016年度は随時常任理事会を開催し、学校改革等の諸課題について具体的に検討整理し、結果を理事会において報告した。

### 2-2 2017年4月「アサンプション国際 21世紀型教育・男女共学」の始動

#### (1) 近年の入学生激減の状況

- ① 本学院は、創立者のカトリックの精神に添い、教養ある人材の育成を掲げ、1954年(昭和29年)2月に学校法人被昇天学園として設立認可を受け、幼稚園及び小学校を開校し、以後順次、中学校、高等学校、短期大学を開校し、以後、1987年(昭和62年)4月に法人名を聖母被昇天学院に変更し、2005年(平成17年)7月に短期大学を閉学したが、本学院の母胎である聖母被昇天修道会の教育理念に従って学校教育及び保育を展開してきた。
- ② しかし、近年は少子化の影響をもちに受け、2015年4月には小学校入学生が15名と激減した。
- ③ 2016年5月1日現在、小・中・高等学校の定員合計は840名、現員は476人、生徒定員充足率は56.7%と最も低い。

近年の5月1日在籍生徒数と定員充足率

年度	定員	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
幼稚園	300	294	291	285	276	270	282	307	288	318	310	314	308	309
小学校	360	282	317	322	340	326	316	302	284	267	247	222	189	179
中学校	240	147	151	148	155	190	207	197	184	181	174	149	133	133
高校	240	189	184	161	161	160	171	176	199	197	186	174	172	164
総合計	1140	912	943	916	932	946	976	982	955	963	917	859	802	785
小中高計	840	618	652	631	656	676	694	675	667	645	607	545	494	476
小中高定員充足率		73.6%	77.6%	75.1%	78.1%	80.5%	82.6%	80.4%	79.4%	76.8%	72.3%	64.9%	58.8%	56.7%

#### (2) 学校改革元年 2017年4月「アサンプション国際 21世紀型教育・男女共学」の始動

2016年3月22日理事会の決議により、この危機を乗り越えるため学院の大改革として

- ① イマージョン教育による英語力の養成 (英語・数学・理科・音楽・総合の5科目の英語イマージョン教育)
- ② アクティブラーニングによる問題解決力の養成 (主体的・協働的に学ぶ)
- ③ ICT活用によるICTスキルの養成 (タブレット端末を生かす授業)
- ④ カトリックの理念による生きる力の養成、

などを組み合わせた アサンプション・イングリッシュコース 及び アサンプション・グローバルコース の2コースを設け、未来の社会で活躍する「21世紀型教育」に移行し、2017年4月に校名をアサンプション国際に変更すると共に男女共学校として始動することとなった。

### 2-3 校名変更に伴う規程(寄附行為・学則)整備

#### (1) 寄附行為及び寄附行為施行細則の変更

校名変更による寄附行為及び寄附行為施行細則の変更届を、2016年11月11日理事会決議に基づき、大阪府教育長あてに届出し、2016年12月10日付けで受理された。

変更後：第4条設置する学校 (1) アサンプション国際高等学校(2) アサンプション国際中学校(3) アサンプション国際小学校。この寄附行為は、2017年4月1日から施行する。

(2) 小学校、中学校、高等学校の学則変更 (目的、名称、定員、学費)

学則の一部変更届を、2016年11月11日理事会決議に基づき、向井 正博大阪府教育長あてに届出し、2016年12月10日付けで受理された。

小学校の定員は、「学則第5条 本校の定員は360名とする。なお各学年は2学級以下とする。」を「学則第5条 本校の定員は360名とする。」に変更。また、定員360名を超える前に収容定員増の認可申請を行う。

中学校・高等学校の定員は、「学則第5条 本校の定員は240名とする。なお各学年は2学級編成とする。」を「学則第5条 本校の定員は240名とする。」に変更。

2-4 文部科学大臣からの21世紀型の「教育課程特例校指定」と教育課程の変更

2016年8月23日付けで理事長名にて、文部科学省初等中等教育局長あてに、「学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成し教育を実施することを希望する」として、「教育課程特例校指定申請書」により申請し、2016年12月21日付けで文部科学大臣から「教育課程特例校指定書」(28文科初第1229号)をいただきました。

この指定により2017年度から小中高校の学則第18条教育課程表の変更を大阪府教育長あてに届出し、2017年3月13日付けで受理された。

2-5 男女共学・21世紀型教育設備 (ICT環境、iPad導入、アクティブラーニングルーム)の施設整備

(1) 男女共学に伴う男子トイレ改修工事の実施

	中学校高等学校	小学校	備考
① 男子生徒用トイレ改修1か所(小学)		8,856,000	H28.8.29 完成
② 男子生徒用トイレ改修3か所(中・高・多目的)	18,360,000		冬・春休みに完成
	18,360,000	8,856,000	
合計	27,216,000 円		

(2) 21世紀型教育設備 ( ICT環境 ・ I Pad 導入 ・ アクティブラーニングルーム)等の施設整備は、2017年度当初 に実施。

2-6 長期借入金の資金活用

(1) これまでの長期借入金の状況

2007年3月28日に、小学校第一体育館新築工事費用として、1億8500万円、及び、中高校舎耐震工事費用として、1億6500万円を日本私立学校振興・共催事業団から合計3億5千万円を借り入れた。

借入期間20年間うち2年間元金据置、最終返済期日2026年9月15日、年率2.1%、土地建物に一番抵当権設定、理事長の債務保証、現在の元金残高は1億9430万円。今後10年間、毎年度1943万円と利息の返済。

(2) 2016年度長期借入金の状況

学院改革として2017年4月からの「アサンプション国際21世紀型教育」始動に伴い、①21世紀型教育にかかる準備広報費用、②男女共学に伴う男子トイレ整備等改革教育資金確保のため長期借入金を活用した。

(ア) 2016年9月14日理事会決議に基づき、本学院の母胎である聖母被昇天修道会から9月21日に5千万円を借り受けた。(無担保、無利息、7年間のうち2年間据置で2020(平成32)年3月20日を第1回目とし、2024(平成36)年3月20日まで、毎年1回1,000万円を合計5回の分割払いで返済)。

(イ) 2016年11月11日理事会決議に基づき、池田泉州銀行から低利の1億円枠融資の承諾を受け、11月30日にそのうちの5千万円を借り受けた。借入期間は2016年11月30日から2023年11月30日の7年間、うち2年間元金据置後毎月833,000円を2018年12月31日を1回目とし、2023年11月30日まで返済し、期日に853,000円で完済。利息は年率1.5%、借入日から毎月返済。根抵当権5千万円設定、理事長の債務保証は不要。

(ウ) 2017年3月22日理事会決議に基づき、男女共学に伴う男子トイレ改修工事費27,216,000円の資金確保として、日

本私立学校振興・共催事業団からの一般施設費融資として2017年3月29日に2千万円を借り受けた。借入期間10年間うち1年間元金据置、年率0.31%、土地建物に一番抵当権設定、理事長の債務保証が必要。毎年度約220万円と利息の返済。

これら4件を合わせると、毎年度、元金4220万円と、利息約200万円の合計約4500万円を返済する。

## 2-7 今後の生徒収容計画素案の検討

- (1) 2017年1月25日理事会において、新しい学校づくりとして2017年4月からの「アサンプション国際21世紀型教育・男女共学」始動に伴う生徒増加収容計画の対応、及び、建物老朽化の対応について、教室配置をはじめ学院全体の新施設整備計画や、2024年創立70周年に向けての課題を視野に入れて、生徒収容計画素案を検討した。

- (2) 収容クラスの拡大案

現在の小・中・高等学校の合計24クラス840人を、33クラス1050人までに拡大する。

- (3) 校舎増築経費の試算

例えばテニスコートの敷地に教室棟を新築する場合の例

校舎増築の建築費試算例

3階建て9教室新設の例→ 38m×11m×3階建=1,254 m<sup>2</sup> 1,254m<sup>2</sup> × 35万円/m<sup>2</sup> = 438,900,000円

4階建て12教室新設の例→ 38m×11m×4階建=1,672 m<sup>2</sup> 1,672m<sup>2</sup> × 35万円/m<sup>2</sup> = 585,200,000円

- 防災上の安全確保の検討

現在の校舎の配置については、これまでの耐震改修工事の際にも検討された経緯があるが、南北の避難動線の確保が十分とは言えないため、校舎改築時においては、南北の避難動線の確保を考慮した校舎配置の検討が必要。

## 2-8 特定預金の取崩し

2016年9月14日理事会決議に基づき、学院改革資金に充当するため、減価償却引当特定預金2000万円及び奨学寄付金引当特定預金21,879,816円の全額を取崩し、支払資金へ振替えを実行した。

- (1)減価償却引当特定預金は、学院が保有する建物、構築物、機器備品などの減価償却資産の取替えのための資金積立預金です。

- (2)奨学寄付金引当特定預金については、

①昭和51年度に「被昇天奨学育英会会則」として創設され、目的は在籍生徒への奨学金、教職員への研究奨励金、右近図書館の整備。昭和62年4月に「奨学生規程」へ改定し、在籍生徒への奨学金に対象を限定。

②平成21年(2009年)4月に「奨学金基金貸付規程」が施行され資金が引き継がれ、現在に至っている。近年の貸付の内訳は、21年度3名、22年度6名、23年度4名、25年度1名の合計延べ14名、実人員は10名。貸付合計4,727,940円。

③今回、奨学寄付金引当特定預金21,879,816円全額を取崩し、支払資金へ繰り入れる。

## 2-9 学校法人聖母女学院との包括連携協定書の締結について

学院改革推進の一環として、本法人と学校法人聖母女学院が、包括的に緊密な協力関係を築き、連携を深めることで、教育研究活動の充実、教育内容の充実、人材の育成、地域社会への貢献、教職員の資質向上に寄与することを目的として、包括連携協定書を2017年2月1日に締結した。

## 2-10 法人事務局と学校事務室の統合について

学校事務室及び法人事務局の事務改善として、2017年4月から法人事務局内に学校事務室を統合し一元化を図ることとした。組織改編として法人事務局内で事務局長のもとに、法人事務局、学校事務部、入試広報室を集中設置し、法人本部と称する。

- (1) 法人事務局には、総務課、人事課、経理課、管財課を置く。
- (2) 学校事務部は、法人本部に席を持ち、小学校、中学校高等学校、幼稚園の事務室業務を統括する。  
また、学校・幼稚園の職員室には電話対応・来客対応等の中継ぎ業務を受け持つ教務補助(助手)を置くことができる。
- (3) 入試広報室は、入試、広報、ホームページ管理等に関する業務を統括する。

### 3. 2016年度 認定こども園 事業報告

認定こども園 聖母被昇天学院幼稚園

#### ◆ 本園が目指す教育 ◆ ～ 柔軟でバランスのとれた人格形成 ～

「正しくいきいきとした子ども・やさしく明るい子ども・考え、最後までやりぬこうとする子ども」を教育方針に掲げ、「まっすぐな心」で、いつも心の奥深くからあふれ出る喜びいっぱい、神様から与えられた無限の可能性を精一杯発揮できるように導く。

その中で他者との違いに気づき、思いやりの心を育む。人と人の繋がりの中で、お互いが違いを認め合い、共感し合う体験を通して、ともに活動する喜びを感じながら、「やさしい心」・「最後までやりぬく力」を育てていくことを目指す。

#### ◆ 在籍者数及び入園者報告 ◆ (2017年3月末の実績)

2歳児 12名、3歳児 102名、4歳児 96名、5歳児 98名 合計 308名

#### 1. 保育活動の充実について

##### (1) モンテッソーリ教育

- ・ ディプロマ保持者による教職員研修を実施したが、当初目標としていた回数を下回った。
- ・ 「保護者のモンテッソーリ研修」を各学期に実施した。
- ・ 資格習得研修に1名の教員が受講したが、保育業務のため、今年度の資格習得には至らなかった。

##### (2) 教育計画の完成

- ・ 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づき、本園独自のカリキュラムの構築を目指したが、今後のさらなるブラッシュアップが必要である。

##### (3) 教職員の資質向上

- ・ 事故・怪我・感染症など、危機管理研修を実施した。
- ・ 保護者対応等の社会人基礎研修を実施した。

##### (4) 食育への取り組み

- ・ サツマイモの苗植えをはじめとする栽培・収穫体験を実施した。
- ・ 学期に一度の食育クッキングを実施した。(ピラフ・クッキー・白玉)

##### (5) お茶の時間(和の心)

- ・ 年長児を対象に「預かり保育」時間内に年に数回、礼法活動を実施した。

##### (6) ETM(英語教育)

- ・ 「遊びを通しての発達」という幼稚園教育要領に準じ、北米の『Education Through Music』という全人教育プログラムを使った活動を実施した。

##### (7) 幼小連携プログラム

- ・ 本学院小学校体育教諭による一輪車教室を実施した。
- ・ 年長児を対象とする「小学校体験保育」に参加した。

2. 入試広報活動としての「子育て支援事業」①(有料)

- ① アサンプション・プレスクールを実施した。
  - 《ひよこバッチクラス(幼稚園あそび)》
  - 《ニコニコジャンプ!クラス(体操あそび)》

3. 「認定こども園」としての「子育て支援事業」②・③・④(④のみ有料)

- ② みんなであそぼう(つどいの広場)を実施した。
- ③ 子育てなんでも相談を実施した。
- ④ 1号認定園児への「一時預かり保育実施」を実施した。
  - ※1号認定・2号認定・3号認定ともに年間園長が定めた15日以外に実施。

4. 認定こども園としての取り組み

- (1) 組織の変革
  - ・ 保育教諭(幼稚園教諭と保育士資格を持つ)教員を3名採用した。
  - ・ 主幹教諭(専任化し、子育て事業を展開)設置のために2名の専任教諭を配置した。
- (2) 自園給食
  - ・ 業者変更に伴い、在園時保護者対象の試食会を実施した。

## 4. 2016 年度 小学校 事業報告

聖母被昇天学院小学校

2016 年度事業計画 テーマ:「つながり」

※ 2014 年度 「コミュニケーション」  
2015 年度 「つながり」

総括



### 1. 最重要課題

- (1)2017 年に向け、教育内容の改編 ～児童・保護者の満足度アップ ⇒少しずつ向上中(課題あり)  
 (2)入学者の確保 ～2017 年度入試 50 名以上の入学者確保 ⇒最終 67 名(入試見直し要)  
 (3)校務運営を円滑にすすめるための教職員組織強化 ⇒新年度準備の体制確保  
 (4)施設・設備、規定品等の変更 ⇒3 月中に完了

### 2. 課題への具体的な取り組み

#### (1)教育内容の充実

	2016 年度事業計画	総括
授業力の向上	①校内研修の実施と校外研修への参加 ②各学年に応じた学習方法の研究及び研究体制の整備 ③アクティブラーニング等の 21 世紀型教育の試行導入 ④年間を通じた新任研修の推進	新任研修、その他研修はほぼ計画通り。ALについては自主的研修向上。
ICT 教育の向上	①授業での iPad 活用 ②校外研修(iPad 活用)への参加 ③プレゼンテーション力の育成	各学年に応じた iPad 活用授業は着実に実施。
国際教育の充実	①小中高英語カリキュラムの策定 ②英語指導方法の研究 ③異文化理解教育の推進 ④日本文化の学習 ⑤Skype を利用した系列校との交流	イマージョンチームを中心に研究・学習向上中。新年からネイティブ教師との授業準備活発化。
特色教育	①国語:読書・習字・音読・論文指導の研究 ②算数:チャレンジタイムによる基礎学力の充実 ③総合:食育・礼法・生教育の推進 ④体験学習のカリキュラム作成 ⑤行事の見直しと改善	ほぼ計画通り実施できたが来期も継続課題としたい。
2017 年度に向けて	①新コース制の学習指導内容・学級経営の検討 ②新カリキュラムの作成と教材研究及び評価の検討 ③新コース制対応の入試内容検討 ④規定品等の検討	3 月中に各検討は完了。

(2) 広報活動

	2016 年度事業計画	総括
入学者の確保	① 内部満足度の向上 ② Web ページによる情報発信の強化 ③ 併設幼稚園・同窓会との関係強化 ④ 外部幼稚園、幼児教室との関係強化 ⑤ 新コース設置に伴う入試制度の検討、説明会の実施 ⑥ 外部広報活動の充実・強化	人数は確保できたが、来期は制度見直しを検討したい。 説明会スケジュールは予定通り円滑実施。外部との連携は向上するも、制度面の改善、内部連携に課題を残す。
併設校との連携推進	① 園児・児童・生徒の交流推進 ② 併設校園の教職員との意見交換、交流促進 ③ 中学内部推薦制度の見直し	中学への内部進学に大きな課題を残す。学院全体での検討急務。

(3) 人事組織

	2016 年度事業計画	総括
プロジェクトチーム設置	① 2017 年度教育改革、特に研修の推進 ② 教育改革内容について、学院との調整連絡 ③ 外部への研修派遣	外部研修に時間的制約があったが、内部研修とPT効果で対応できた。
業務内容の見直し	① 教職員の業務見直しによる職員採用 ② ボランティア人材による教育活動のサポート	2017 に向けた人材は確保。

(4) 施設設備

	2016 年度事業計画	総括
施設設備の新設・点検	① 新コース制導入に伴う設備の新設 ② 運動場土壌調査 ③ 運動場設置遊具の点検 ④ 第1 体育館メンテナンスの実施(電動いす他) ⑤ 第1 体育館バスケットボールコート貼替	対応はできたが、運動場の抜本的な見直しが課題。教員室の環境整備を追加、夏季休暇までには完成させる予定。

3. 改革・改善度のフォローアップ強化

(1) 管理職と教職員のコミュニケーション アップ

⇒今後も情報の共有化を目指す。

(2) アンケート調査分析力向上と満足度推移チェック

⇒保護者満足度向上は永遠の課題。今後も努力が必要！

分析力の効率化も要検討。

## 5. 2016 年度 中学校高等学校 事業報告

聖母被昇天学院中学校高等学校

『社会を変革し、世界平和に貢献する人材の育成』

“Assumption Education Program”の構築

「グローバルな視点に立って、国際社会において貢献できる人材の育成」

～2030年の社会に向けて「聖母被昇天学院のグローバル教育」をもとに「21世紀型教育」を始動

### 【理 念】

#### 1. 『共に喜びを分かち合える教育活動の展開』

《生徒・保護者・地域等から評価される教育活動の展開》

すべての教育活動において、信頼と満足度の向上を目指す

#### 2. 選ばれる学院になるために

学院のおかれている状況を再認識し、教職員一枚岩となって「進化」していく

### 【最重要課題】

1. 教育力の向上 2017年度教育改革に向けた教育プログラムの準備と教員研修の実践
2. 入学者の確保 中学校70名 高等学校70名 を目標とした広報戦略の強化
3. 2017年度に向けての教職員体制の検討と組織の見直し
4. 経費削減の努力

### 【課題への具体的な取り組みと評価】

#### 1. 教育力の向上 2017年度教育改革に向けた教育プログラムの準備と教員研修の実践

##### (1) 2017年度からの新しいカリキュラムや年間行事予定の検討・決定

###### ①カリキュラムについて

a イマージョン科目の決定

b 探究科開設に向けての本格準備

c その他

###### ②年間行事予定について

a イングリッシュキャンプ、エンレッシブプログラム、グローバルアクティビティなどの導入を決定

b その他

評価：イングリッシュ・グローバル両コースに、特徴的な教育プログラムを準備できたと思われる。一方で、来年度の教育活動を進めていく中で新たに様々な課題が出てくるのが予想されるので、2018年度に向けて、一度決めたカリキュラムや行事であっても柔軟に対応する姿勢を持つべきであると思われる。

##### (2) 教職員研修の実施(学院主催のものも含む)

①プロジェクトチーム研修(通年/本間先生)

②21世紀型教育に関する研修(8月5日、10月5日/石川先生)

- ③アクティブラーニング研修(8月22日午前/本間先生)
- ④人権教育に関する研修(LGBT)(8月22日午後/人権推進委)
- ⑤共学化に向けた研修(男子教育と女子教育)(9月8日/神戸海星女子学院大学教授)
- ⑥パワハラ研修(12月21日/労務理事)
- ⑦英語イマージョン教育研修(1月25日/Albert イマージョンコーディネータ)
- ⑧Classi研修(2月24日/ICT推進委)

評価:教育改革に伴う研修は意識向上と改革理解に有効。特に、人権研修とパワハラ研修は時代の趨勢課題として有意義なものであった。

## 2. 入学者の確保 中学校 70名 高等学校 70名 を目標とした広報戦略の強化

- (1)校内入試イベント個別のちらしを作成(11月プレテスト・入試説明会、12月入試対策セミナー)
- (2)校内入試イベントの内容精査
  - ①リハーサルを行い、本間・石川両先生からアドバイスをいただいて内容を改善
- (3)公立中訪問の、回数増(2回→4回)と全教員での対応
- (4)入試制度の改善
  - ①中学入試で、夢サポート入試の名称変更や要項への詳細記載、英語型や思考力型の導入
  - ②帰国生入試の導入

評価:中学校は目標が達成できなかった(外部12名+内部18/41名)。

(昨年:外部20名+内部24/47名、一昨年:外部20名+内部25/48名)

高等学校は、目標が達成できた(外部44名+内部35/44名)。

(昨年:外部13名+内部32/45名、一昨年:外部8名+内部53/57名)

来年度は、特に中学の入学者数を増やすための取り組みに力を注ぐ必要がある。

## 3. 2017年度に向けての教職員体制の検討と組織の見直し

- (1)ICT推進委員会、探究科、イマージョンコーディネータ、教育アドバイザーの設置、採用
- (2)2017年度からの、イングリッシュコース主任とグローバルコース主任の設置を決定

評価:21世紀型教育の柱となる、IMMERSION、PBL、ICTへのこ入れができたと思われる。

## 4. 経費削減の努力

(特記事項なし)

評価:日々の業務を遂行するにあたり、できるだけ費用対効果を視野に入れて対応したが、十分な成果が出るような取り組みはできなかった。

## 5. その他

(1)施設設備の整備

- ①男子トイレ、多目的トイレ、更衣室、Future Room、学内LAN等の整備
- ②共学化に向けて、死角を減らすため各教室等のドアに透明ガラスの小窓を設置

評価:法人と連携して最低限の準備はできたと思われるので、引き続き、来年度の教育活動を進めていく中で出てきた新たな課題について、対応したい。

○ 2016年度高等学校の卒業生(57名)の進路状況

大学 43名、短期大学2名、専修学校5名、その他7名 合計57名

過去5カ年の主な合格校 (数字は人数。( )は過年度生で内数)														
		*1人が同一校複数合格でも1とカウントしています。												
	合格校	2012	2013	2014	2015	2016		合格校	2012	2013	2014	2015	2016	
国公立	大阪大学(人間科学部)				1		私立 大学	羽衣国際大学					1	
	大阪教育大学(教育学部)		1					太成学院大学					1	
	熊本大学(法学部)			1				神戸女学院大学	2	2	1	3	1(1)	
	宮崎大学					1		同志社女子大学		1	1	1	1	
	大阪市立大学(経済学部)		1					京都女子大学		1			1	
	大阪府立大学(工学域)			(1)				甲南女子大学	6	7	1	1	2(1)	
	京都市立芸術大学					1		武庫川女子大学		2(1)		2	2	
	岡山県立大学(デザイン学部)	1						神戸女子大学		1				
近畿 以外 私立 大学	上智大学		2	2	3	3	女子 大	神戸松蔭女子学院大学	4	7	3	6		
	慶応義塾大学		1					大阪樟蔭女子大学			2			
	立教大学		1					平安女学院大学		1				
	法政大学				1	1		園田学園女子大学				1		
	学習院大学					1		大阪女学院大学	1	1				
	武蔵野美術大学		1					千里金蘭大学	2					
	日本女子大学		1					梅花女子大学	3					
	清泉女子大学		1			1		京都ノートルダム女子大学	4	4	4	2	2	
	跡見学園女子大学		1				神戸海星女子学院大学	2	1		2	1		
	実践女子大学		1				大阪信愛女学院短期大学	1	2	4	1(1)			
	医療	城西国際大学						神戸薬科大学(薬学部)	1		1	1		
		多摩美術大学		1				大阪薬科大学(薬学部)					1	
		東京造形大学		1				摂南大学(薬学部)				1		
		女子美術大学		1				兵庫医療大学(薬学部)	1(1)			2		
		白百合女子大学			1	1	1	武庫川女子大学(薬学部)	1					
		千葉工業大学			(1)			神戸学院大学(薬学部)			1	3		
		成蹊大学					1	奥羽大学(歯学部)			1			
		立命館アジア太平洋大学	1					関西看護医療大学(看護学部)		1				
		宮崎国際大学	1					関西医療大学(保健看護学部)					1	
		関西学院大学	5	6	11	3	7	森ノ宮医療大学(保健医療学部)					1	
関西大学		3	3	6	4	5	大和大学(保健医療学部)					1		
私立 大学		同志社大学		2		1	1	芸術 系	大阪音楽大学		1	1	1	1
	立命館大学		1			3	大阪芸術大学		1	1	1			
	近畿大学	1	3(1)	2	5(1)	3(1)	京都造形芸術大学		2		1			
	甲南大学		2	1	1	1	京都精華大学			2	1	1		
	京都産業大学	1	1	1	1	1	宝塚大学		2					
	龍谷大学			1	1	1(1)	神戸芸術工科大学		1					
	佛教大学		2			1	成安造形大学						0(1)	
	関西外国語大学	2	1	1			桐朋学園大学						1	
	京都外国語大学	2	2	1	3	1	短大		上智大学短期大学部	1	1			1
	追手門学院大学	3	2	1	5	1			南山大学短期大学部					
	桃山学院大学		1					関西外国語大学短期大学部	1	1		1		
	大手前大学	1	1					武庫川女子大学短期大学部		3			1	
	京都橘大学		1					大阪芸術大学短期大学部		3	1	1		
	大阪成蹊大学		1					大阪女学院短期大学			1			
	大阪人間科学大学		2					大阪成蹊短期大学		1				
	神戸山手大学	1						京都聖母女学院短期大学		1				
	大阪体育大学					1		池坊短期大学	1					
	大阪学院大学	1		1	1			神戸女子短期大学					1	
	神戸学院大学				1		京都外国語短期大学		1	1	1			
	相愛大学			1			京都嵯峨芸術大学短期大学部		2					
関西国際大学				1		大手前短期大学			1					
甲子園大学					1	華頂短期大学				1				